

# お 泉 水

1997年3月1日

## ■平成8年度全国図書館大会

10月23日～25日の3日間、別府市及び大分市において「大分の風 おもいをのせて全国へー特色ある図書館づくりとネットワークの広がりをめざして」を大会テーマに、第82回全国図書館大会が開催された。大会参加者は2,062名、本県からは2名が参加した。

1日目は、開会式に続いて全体会が開かれ、一村一品運動で知られる平松守彦大分県知事による記念講演「地域づくりは人づくりーローカルこそグローバル」、大会副会長による基調報告が行われた。

2日目は、14の分科会でそれぞれ研究・協議や討論が行われた。

3日目は全体会が行われ、各分科会の報告とそれに対する質疑応答、続いて全体討議が行われた。都道府県立図書館の厳しい状況について協会としてなんらかの働きかけをすべきではないか、来年度は公共図書館とは別に都道府県立図書館分科会を設けてほしい等、都道府県立図書館に関するいくつかの発言がめだつた。アピール・宣言等の採択はなかった。次回第83回大会は山梨県甲府市で開催される予定である。

(福井県立大学情報センター 伊藤 多恵)

## ■平成8年度全国公共図書館研究集会

### ◇奉仕部門

11月7日・8日の2日間、福岡市において「図書館に今問われているもの」を研究主題に、平成8年度全国公共図書館奉仕部門研究集会が開催された。参加者は、本県からの2名を含む390名であった。

第1日は、開会行事の後、葉袋秀樹図書館情報大学教授により、「図書館サービスの課題」というテーマで基調講演が行われた。続いて、3館からの事例発表があり、カウンター業務についてだけでなく、職員研修のあり方や、新図書館建設までの流れや試み等、広い範囲で研究討議が行われた。

第2日は、「これからの図書館サービス」をテーマに、葉袋氏を中心にシンポジウムが行われた。つぎに、日本図書館協会からの情勢報告があり、2日間における大会の幕を閉じた。

(福井市立みどり図書館 岩本 昌宏)

### ◇整理部門

本年度の全国公共図書館整理部門研究集会は「資料選択と蔵書構成」を研究テーマに、9月19日・20日の両日、千葉県鴨川市で開催された。参加者は299名で本県から

は、2名が参加した。

研究内容は、「大阪府立図書館2館における資料分担収集について」「浦安市立図書館における資料管理と蔵書構成グループ」「中標津町図書館における蔵書構成と資料収集の実際」の事例発表及び研究討議であった。現在の膨大な出版物の中から、どのような資料を選択し、蔵書を構成して、利用者に応じていくのかは、図書館の最も大切な仕事であり、日々の「資料を知る」研修の大切さを痛感した。

なお基調講演は、「公共図書館における資料選択と蔵書構成」(立教大学文学部教授 坂井弘志氏)であった。  
(春江町立図書館 浦谷 昌野)

### ◇参考事務分科会

9月26日・27日の両日、福島市で「これからの公共図書館の参考事務のあり方を探る」を研究主題に、平成8年度全国参考事務研究集会が開催された。参加者は257名で、本県からは1名の参加であった。

基調講演「インターネット時代のレファレンスサービスと職員の役割」で昭和女子大学助教授の大串夏身氏は特にレファレンス事例集の継続的刊行を主張された。

「東京都立図書館のレファレンスー現状と課題ー」「山形県立図書館におけるレファレンスの現状と課題ー補助ツール作成を中心にー」「参考業務の職員研修ーその技術向上をめざしてー」「町の図書館のレファレンスーその小さな工夫ー」の4件の事例発表及び研究協議が2日間にわたり行われた。各館の創意・工夫・努力の積み重ねの上に地道な図書館活動が続けられていた。

(福井市立図書館 阿部 法夫)

### ◇児童図書館分科会

11月14日・15日の両日「すべての子どもに読書のよるこびをー21世紀を見すえてー」をテーマに、高知市で児童に対する図書館奉仕全国研究集会が行われ全国からは386名の参加で、本県からは4名が参加した。

図書館情報大学名誉教授竹内愼氏による「子どもの読書のよるこびのためにーその広がり、基盤、そして目標ー」と題して21世紀に生きる子どもたちのために図書館と図書館員ができることについての基調講演があった。第1分科会では、「子どもサービスをどう広げるかーストーリーテリングを中心にしてー」をテーマにストーリーテリングの実演とともにその広げ方について県立図書館のお話の会の研修会のあり方や学校との関わり方を討議し、全体会では、職員制度について司書職としての採用の重要性が主張された。

(県立図書館 中山 史)

## 特色ある図書館づくりをめざして

～ 永平寺町立図書館 ～

永平寺町は「水と緑」豊かな自然に恵まれた町で、曹洞宗の大本山永平寺のある町としても国内外に知られております。

そこで、本町におきましても現在の生涯学習社会を支援し、人材の育成を図り、よりよい町づくりをめざすため、平成8年度に永平寺町緑の村に資料館との複合施設として「四季の森文化館」を総工費約18億円をかけて建設いたしました。

一階が図書館施設、二階が資料館施設で永平寺の傘松閣を復元した「旧傘松閣」と棟続きとなっており、貴重な歴史、文化資料の展示施設と、一般図書や郷土資料を収集し、視聴覚資料も備えた施設となっております。

一階面積は873㎡で映像ホールやギャラリー、児童コーナーも配置し、子どもからお年寄りまで気軽に過ごしていただけるよう配慮いたしました。

資料は現在、一般図書・児童図書を合わせて22000冊、仏教関係の専門図書1500冊でCD、ビデオ、LDなどの視聴覚資料も収集しております。

昨年5月末の開館以来、ご祝儀来館者もあってか好調な出だいで、7ヵ月で約2万冊の利用冊数となっており、旧館当時から比べると格段の差となっております。

旧館は100㎡程度の間借り図書館で、本館利用は行事を行ったときだけで、貸出はほとんどBMで行っていたことが今はなつかしく思われます。

永平寺町立図書館としての活動は昭和61年から始まりましたが、それからちょうど10年目に公共図書館として認めていただけるようになりつばな図書館の完成となりました。

しかし、ここまでの流れは容易なものではなく、前任の担当者のご苦労や住民の方々の応援があったことはいうまでもありません。

新館の開館とともに、これらのことをもう一度思い起こしながら、特色ある図書館づくりを行わなければならないと考えています。

つまり、私たち図書館職員は施設設備が整ったからといって、その現状に甘んじることなく、我々の図書

館が常に基本的要件を備えているかを考えながら、時代の変化のなかで住民が図書館に対して何を要求しているのかを常に把握し、それに応えていく努力を続けていくことが、非常に大切なことだと考えております。

これからの地域図書館のあり方は、資料提供とあわせて「ふれあいと交流」のある、コミュニケーションプラザとして位置づけることも重要です。

そこでは資料を通じて、利用する人々のふれあいがあり、それはすばらしい学びあいとなります。その「学び」は目まぐるしく変化する現代の社会のなかにおいて、生きる力を身につけ、生きる方向を示す手助けになると思います。たぶん、それは図書館全員の願いでもあり、夢でもあると信じています。

コミュニケーションは地域に新しい文化と郷土愛を芽生えさせてくれるもの、それだけのことを図書館は担えるのだと、自分たちに言い聞かせながら、開館以来、職員の日々奮闘が続いています。

終わりにりましたが、県立図書館の故出雲俊樹氏には何かとご指導いただきながらも新館落成をご覧いただくことができませんでした。

今はこの残念に思う気持ちを今後の図書館活動に向けていきたいと考えております。

また、ご支援いただいた、県内外のたくさんの方々の同僚の方々にこの紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(永平寺町立図書館 酒井 圭治)



## 誰もが気軽に立ち寄れる自由な雰囲気の図書館に！

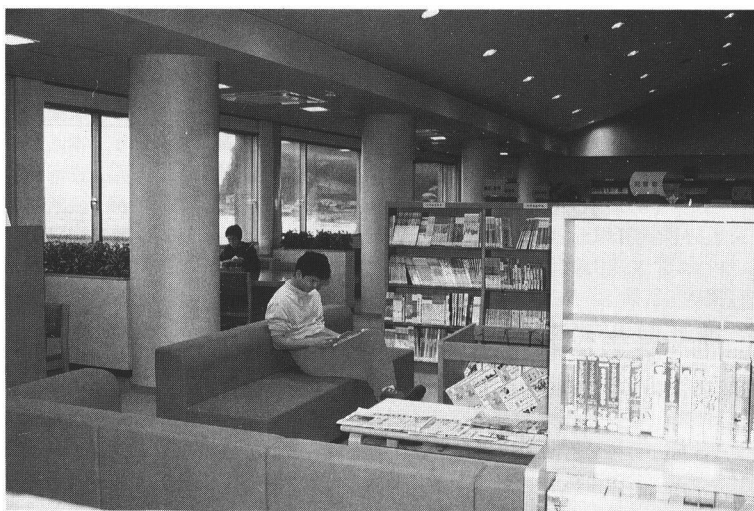
～ 河野村立図書館 ～

平成8年5月1日、河野村に「歴史文化ふれあい会館」が完成しました。今までは、住民の一部の人が利用するだけの小さな図書室が、住民センターの一室にありました。しかし、現代の情報化社会の中で、住民の人により多くの、そして質の高い情報を提供できるように、さらに、河野村は北前船の歴史むらということもあって、村民をはじめ、県内外の人に村の歴史を知ってもらえるようにと、この「歴史文化ふれあい会館」が作られました。

この建物は、北前船主の館・「右近家」のすぐ隣にあります。2階建てとなっていて、1階は村の歴史を紹介する歴史資料館、2階が村内で初めての図書館となっています。1階展示コーナーでは、漁具や北前船の模型、さらに特務艦関東遭難の資料やマンダラ寺遺跡の遺物などが展示されています。また、直径3mの水槽には、近海でとれる季節の魚を常時入れてあり、来館者の方の大変な人気となっています。

2階の図書館では、従来の収容能力の低い図書室では、村民の方の生涯学習のニーズに十分応えられないと、およそ1万4千冊の本が用意されています。図書館内には、広くゆったりとしたスペースで、本棚やじゅうたんは淡い色使いとなっていますので、来館者の方にやわらかな雰囲気とやすらぎを感じていただけたらと思います。またこの建物は、国道沿いに建てられていますので、閲覧コーナーから、日本海が一望でき、大変すばらしい眺めになっています。ここを訪れる観光客の人から、有難いおほめの言葉を数多くいただいています。閲覧コーナーの他にも、児童コーナーやAVコーナーも用意されています。児童コーナーでは、児童書や絵本、紙芝居など、約4千冊用意されています。このコーナーは、床暖房になっていますので、小さいお子さんはねころんで本を読むことができます。ビデオは、約83タイトル用意してあります。その他、新聞6紙、雑誌28タイトルあります。

開館して約9ヶ月が経ちましたが、現在の利用状況というと、月に約800人くらいの村民の方に利用していただいています。やはり、土・日曜日に貸出利用が集中します。というのは、土・日曜日は、子供にひきつけられて親子づれでみなさんいらっしゃるようです。また、高齢者の方々の利用も少しずつ増えています。



図書館業務もコンピュータの導入によって、貸出し・返却処理・資料検索・利用者検索・予約管理など、大変効率的になっています。そこで、図書館運営として考えなければいけないのは、図書館資料の充実と、レファレンス・サービスの充実です。これからの将来において「図書館」を自分達の生活の一部として、身近なものとして認識してもらえるように、さらに、住民の情報の源、また地域交流の場として、親しまれる開かれた機関として定着するような図書館活動を行っていく必要があります。

現在、人々の余暇時間が増加しています。そのような中で、図書館の果たす役割は、非常に大きいものがあります。よって、利用者の多種多様なニーズに少しでも応えるという意味で、先に述べた2点が大変重要となってきます。利用者の方からの素朴な質問や、思いがけない問い合わせを受けた時も、県立図書館をはじめ、近隣の図書館と密に連携しながら、可能な限り回答していきたいと考えています。

最近、来館者の方々から「有難う」とか「ご苦労さまです」と声をかけてもらうことが多くなりました。その度に、こういう利用者の方々に、もっと図書館を知ってもらって、図書館に来てよかったと喜んでいただけるようがんばらねばと、心がひきしまる思いです。図書館を訪れる人が、1冊でも多く本と出会えるように、利用者の視点にたった、利用者本意の図書館運営を目標として一歩一歩、確実に進んでいこうと思います。

(河野村立図書館 寺内 由紀美)

## 平成8年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会

- 開催日 平成8年7月17日(水) 13:30～16:30
- 開催場所 福井県立博物館
- 参加者 福井地区大学図書館協議会加盟館  
(福井大学、福井医科大学、福井県立大学、  
仁愛女子短期大学、福井工業高等専門学校)  
の館員21名

### ■研修内容

講演…「手取層群の恐竜化石」

講師…東 洋一学芸員 (福井県立博物館)

勝山で発見された勝山竜と中国で発見された恐竜の共通点や化石の分布状況、講師が参加した中国での恐竜化石の発掘の状況について講演を受けた。

見学…福井県立博物館の館蔵品を見学するとともに、その展示方法や整理・保存状況についての解説を受けた。

(福井大学附属図書館 木村 幹明)

## 福井県学校図書館協議会この1年

- 5月17日(金) 第1回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会 (於金津高校)
- 6月3日(月) 第2回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会  
第1回県学校図書館協議会理事会 (於金津高校)
- 4月～7月 第22回県小中学生読書感想文コンクール実施 (福井新聞社主催、県SLA後援)  
締切日…6月15日(土)
- 7月10日(水) 第3回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会 (於金津高校)
- 7月～10月 平成8年度文庫による読書感想文コンクール (福井新聞社主催、県SLA後援)に参加 (中・高)
- 7月31日(水) 第30回全国学校図書館研究大会浦和大会  
～8月2日(金) (8名参加) (於浦和市)
- 8月22日(木) 第10回近畿学校図書館夏季セミナー  
～23日(金) (21名参加) (於京都市)
- 9月13日(金) 第4回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会  
第33回福井県学校図書館研究大会 (奥越大会)準備打合わせ会 (於金津高校)
- 9月19日(木) 平成8年度学校図書館研究協議会  
～20日(金) (3名参加) (於東京都)
- 10月25日(金) 第42回青少年読書感想文全国コンクール県予選を実施
- 10月25日(金) 福井県高教研図書館部会研究大会 (於丸岡町民図書館)
- 1月20日(月) 1996年度読書感想文コンクール県予選を実施
- 1月23日(木) 第5回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会 (於金津高校)

- 2月6日(木) 全国学校図書館協議会事務局長会議  
～7日(金) (於東京都)
- 2月12日(水) 会誌「福井県の学校図書館」第42号発行
- 2月13日(木) 第6回県学校図書館協議会役員会兼研究運営委員会  
第2回県学校図書館協議会理事会 (於県立図書館)  
(福井県学校図書館協議会事務局長 水崎 邦子)

## 平成8年度東海北陸地区公共図書館研究協議会・研究集会

9月12日、13日の2日間、岐阜県立図書館において、「今をいける図書館 視聴覚サービスのあり方」をテーマに研究集会が開催された。全国から149名の参加があり、本県からも9名が参加した。

1日目は、文部省生涯学習局図書館担当の濱田幸夫氏が「公立図書館に関する国の施策について」説明、続いて日協町村図書館活動推進委員、ビデオ専門委員の小林是綱氏が「図書館における視聴覚サービスのあり方」と題した基調講演を行ない、午後は三館の事例発表があった。

2日目は、施設管理分科会と視聴覚分科会とに分かれ、それぞれ図書館運営全体について、事例発表を中心とした質疑応答がなされた。最後の全体会においては、討議の結果が報告されしめくくられた。

メディアの発達にともなって、これからの司書は司書の資格だけではだめで、コンピュータのサーチャーのような資格をもっているような人材が望まれている事を痛感、また、著作権等の法規制もきびしくなっており、マルチメディアに対応できる司書が必要されると思った。

(三国町立図書館 井筒 理栄子)

## ■平成9年度研究集会および研修会(予定)

区 分	開催地	期 日
全 国 大 会	甲 府 市	平成9年10月29日～ 31日
整 理 部 門	札 幌 市	〃 9月18・19日
奉 仕 部 門	藤 原 町 ( 栃 木 )	〃 11月13・14日
移 動 図 書 館 協 力 事 業 分 科 会	佐 賀 市	〃 10月16・17日
東 海 北 陸 地 区 公 共 図 書 館 研 究 集 会	金 沢 市	期 日 未 定
日 本 図 書 館 協 会 地 方 講 習 会	岐 阜 市	〃 6月ごろ

